

古紙回収コンテナ発見!

買い物ついでに



近所のスーパーマーケットにある資源回収ボックスは、たくさんの人に利用され重宝がられています。いつの間にかたまってしまふ資源ごみを、お買い物ついでにちょくちょく持って行けるのはとてもありがたいことです。1ヶ月に一度の分別回収だけでは、保管にけっこうな場所をとられてしまいますし、回収当日に一度に全種類出すとなると、ひとりではなかなか大変だからです。

スーパーマーケットの回収ボックスは、発泡スチロールやペットボトル、紙パック、飲料缶が一般的なようですが、先日、イオンモール福津で古紙回収の大きなコンテナが設置してあるのを発見しました。しかも、回収古紙には「雑がみ」もあったので、古新聞と雑がみを実際に持ち込んで、どのような仕組みになっているのか体験してみました。

手順 (回収場所は無人ですのでセルフサービスです)

1. カードを発行する
(備え付けの機械で簡単に発行できます。次回からは必要ありません)
2. カードを機械に置く
3. コンテナに古紙を置く
4. カードにポイントが加算される
5. カードをとる



とまあ、手順と書くほどもなくとっても簡単です。カードにポイントが500点たまると、その場でイオンで使えるお買い物券が発行されるようですが、新聞紙下げと雑がみ一袋で6ポイントでしたから、そちらの楽しみは「気長に」が良いかもしれません。ただ、買い物のついでにいつでも持って行けますし、すいていけば、コンテナ近くの駐車場に止めることもできます。通りがかりの方も興味津々のようで、数人の方に話しかけられましたし、古紙を持ち込まれている方もいました。ただ、回収物を見ると、雑がみはほとんど見当たりません。今後ここをきっかけに、少しでも雑がみの回収が一般的になればいいなと思います。私もできるだけせっせと持って行って、コンテナに雑がみを置き、回収をアピールしたいと思います。皆さんもどうぞご協力よろしくお願いします。

- * 「雑がみ」には、お菓子の箱や包み、メモ紙などいろいろなものがあります。出せないものもありますので、詳しくはお問い合わせください。
- * 段ボールは回収されていません。
- * 回収コンテナは、3号線側、電気自動車充電機のある入り口近くにあります。

ぐりんぐりんフェスタ報告

昨年3月末に誕生したぐりんぐりん古賀の活動を、広く市民のみなさんにお知らせするために、ぐりんぐりんフェスタを開催しました。当日は、およそ子ども200人、大人400人の参加がありました。



▲事前打ち合わせの様子

企業・団体のネットワーク組織の強味を活かして、自然、エネルギー、ごみなど様々な切り口で参加者のみなさんにアプローチすることができました。その他に、ろうそくや発泡トレイをつかった廃材工作や稲藁体験あり、うちエコ相談あり、産直軽トラ市あり、かえっこショップやフリーマーケットあり、とお楽しみ満載で、子どもから年配の方まで幅広い層の方々に楽しんでもらえたのではないかと思います。また、バンブーオーケストラ那珂川の竹の楽器は和やかな音を奏で、癒しの音楽が館内を包み込んでいました。



▲講演会「資源とリサイクル」



▲子どもの学び場かえっこショップ



▲軽トラ販売お買い得!



▲ボランティアさん活躍!



▲しろくますごろくでポイントゲット



▲心に響くバンブーオーケストラ

このようぐりんぐりん古賀の活動に共感したり応援して下さる方々から、6,327円の寄付を頂きました。感謝です。

フェスタにご協力頂きました企業、団体のみなさん、ありがとうございました。

<< Ms. W >>



▲ポイントラリーで散策

北九州市のESD推進活動

私たちエコけんが推進と定着を願う*1ESDの九州における先進地である北九州市は、国連の認定を受けた*2RCEでもあります。RCEは、国際的な目標を地域のコミュニティにおいて実施することによって、2005年から2014年までの「国連持続可能な開発のための10年」目標達成を目指しており、ESDに係わる多様な立場の人や団体が交わる場のメリットを活かしながらESDを推進しています。

その北九州市で、ESD推進を担う「未来パレット」の活動報告会(3/23)に参加してきました。「未来パレット」は、教育機関、NPO、企業、北九州ESDなど多様な立場の70を超える団体と個人からなる全市的ESDのネットワークです。本年度は、北九州市のみならず、九州内のゆるやかなネットワーク化の呼びかけがなされ、エコけんは、その「九州ESD推進ネットワーク会議」に招待いただき1回目から参加しています。活動報告会当日には、その会議メンバーとして、宮崎県綾町の「てるはの森の会」とエコけんが事例発表をしました。



報告会では各地域の活発な活動報告に加え、市内全大学連携による「まちなかESDセンター」の運営が始まるなど、目を見張るものもあり、大いに刺激を受けました。

「国連持続可能な開発のための10年」の期間は残すところわずかになりましたが、まだまだ言葉すら一般的ではありません。私たちは今後も息長く推進し続けたいと思います。

*1 持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)の頭文字を取った略語。地球的視野で考え、さまざまな課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となるように人々を育成し、意識と行動を変革することを目的とする教育。

*2 持続可能な開発のための教育に関する地域拠点

《S》

つれづれ草枕 3月

ひさかたの 光のどけき 春の日に 静心なく 腹の鳴るらむ

先人の名句や名歌を茶化して1年になりました。

去るときは静心で・・・ しかし腹は鳴る・・・ 《日女》

エコけん総会のお知らせ

5月20日(月) 10:00~

舞の里5丁目集会所

次回のエコけん1%クラブ

4月28日(火) 15:00~1時間程度 エコロの森周辺

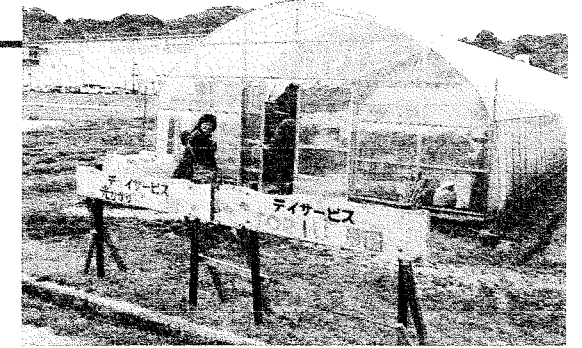


未来を創ろうインタビュー

No.23 久山ファーム体験農園「オルト久山」代表

山邊 信利 氏

久山ファーム体験農園『オルト久山』代表の山邊信利さんに、一面に広がる体験農園の大きな大きなビニールハウスの中で、お話を伺ってきました。中には、体験者が使える鍬や鋤、ジョウロなどの農具が置かれています。奥にはボードと椅子が並んでいました。ここは、畑のプロからノウハウを学ぶスペースであり、時には野菜ソムリエより収穫した野菜を使った料理教室もある場だそうです。



▲大きな大きなビニールハウス

もともとJAにお勤めだった山邊さんは、そこでの経験を生かされ、農業の役割を新しい形で消費者へ伝えるためのさまざまな活動に取り組んでおられます。

Q. 未来のために今何が

重要だとお考えですか

A. 人は、「食することで生命を繋ぎ、健康で幸せな人生を願っている」と思います。自然環境を護るため農業の大切さ、面白さ、充実感を沢山の人が知ってもらうことが重要だと考えます。

Q. そのために

ご自身で心がけておられること

A. 農業体験農園、学園農園等への取り組み



未来を創るメッセージ

社会農業の素晴らしさ、大切さを皆んなで考えよう

畑でいただいたブロッコリーの葉を生で食べました。噛むと口の中に甘みが広がりブロッコリーってこんなにあまかったっけ?と驚きました。もう成人されているお子さんも含め3人のお父さんでもある山邊さんは、畑を歩きながら『土づくりが大事。栄養や水をたくさんやればどんどん育つわけではない、人を育てる事と野菜を育てることは似ている』とおっしゃった言葉が、特に心に残りました。

《N. N》

思いを形に

特定非営利活動法人 **エコけん**

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13

【TEL/FAX】092-944-6450

【E-mail】eco_ecoken@ybb.ne.jp

【Web】http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken